

ワクチンで防げる病気から 赤ちゃんを守りましょう



なぜ生後2か月からなのですか？

A: スタートダッシュが肝心です。
全体のスケジュールや、病気にかかるリスクを考えると、生後2か月から始めることがお勧めです。



みずぼうそう、おたふくなどは
自然にかかったほうがよいのでは？

A: みずぼうそう、おたふくもこじれると十分に怖い病気です。2回接種することで、しっかりと免疫をつけましょう。



任意のワクチンも受けないといけないの？

A: どれもかかると怖い病気です。
ワクチンで防げる病気なので、積極的に接種しましょう。



福井県の子どもに関する問い合わせ先

〒910-8580 福井市大手3丁目17-1
【福井県健康福祉部】
小児医療について…… 地域医療課 (0776-20-0346)
子育て支援について…… こども未来課 (0776-20-0341)
定期予防接種について…… 保健予防課 (0776-20-0351)
心身の発達について…… 障がい福祉課 (0776-20-0634)

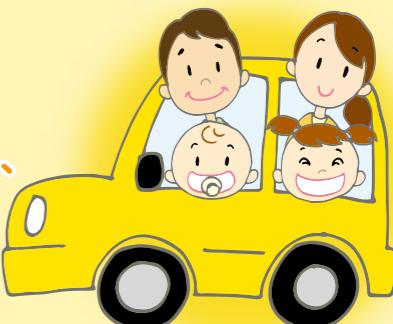
子育て ワンポイント

～1ヶ月 おめでとう～

赤ちゃんの個性は様々です。
おとなしい子もいれば、
とてもよく泣く子もいます。



赤ちゃんが、
いまなぜ泣いているのか、
理由が分からぬことも、
多いものです。



ママが授乳のほかは眠れたり、
リラックスしたりできるように、
家族みんなで、
十分育児に参加しましょう。

福井県・福井県小児科医会

からだ



- よく吐く…多くは生理的。
体重増加が良いなら問題なし。
- 鼻づまり…哺乳が良ければ、様子を見て良いでしょう。
- めやに…多くは自然に治ります。
続くようなら健診のときにご相談ください。
- 便秘…綿棒で刺激しても良いでしょう。

安全



- うつぶせ寝は止めましょう。
- 赤ちゃんを短い間でもひとりで置いておかない！

接し方 ・遊び

- 赤ちゃんが起きている時間には、たくさん話しかけましょう。
- 目を合わせ、赤ちゃんが発する言葉をパパ、ママが繰り返すことは、とても良い刺激です。

予防接種は 生後2か月から



生後2か月からワクチンスタート

細菌性髄膜炎は生後6か月を過ぎると増えてきます。重症化する乳児百日咳を予防するためにも**5種混合ワクチン**、**肺炎球菌ワクチン**は生後2か月から開始しましょう。(各3回)
ロタウイルスワクチンも2か月からがおすすめです。接種開始月齢が遅くなるほど副反応として腸重積症発症リスクが高くなることが知られています。1回目は生後14週目6日までに済ませましょう。
B型肝炎も母児感染の心配がなければ生後2か月から、**BCG**は生後5～6か月に受けてください。



早めに接種を済ませるため、同時接種がおすすめです。

複数のワクチンを同時に受けて(同時接種して)も副作用が増えることはありませんし、ワクチンの効果が減ることもありません。日本小児科学会では短期間に免疫をつけるため同時接種をすすめています。

予防接種スケジュール例 (日本小児科学会推奨)

ワクチン	予防接種のタイミング					
	生後2か月	生後3か月	生後4か月	生後5か月	生後6～8か月	生後9～11か月
5種混合	①	②	③			
肺炎球菌	①	②	③			
B型肝炎 (母児感染予防を除く)	①	②			③	
ロタ(経口)*	①	②	③		※ロタウイルスワクチンには2回のむものと3回のむものがあります。	
BCG				①		

新たなワクチンが導入されたり制度が変更されたりすることがあります。

具体的なスケジュールは、最新のスケジュールを確認のうえ、かかりつけ医と相談しましょう。

令和6年4月改定



新たなワクチンが導入されました。

2024年4月から百日咳、ジフテリア、破傷風、ポリオを予防する4種混合ワクチンと細菌性髄膜炎を予防するヒブワクチンが一緒になった**5種混合ワクチン**が導入され、赤ちゃんへの負担が少し軽減されました。
もう一つの細菌性髄膜炎予防ワクチンである**肺炎球菌ワクチン**もさらに広域に効果のあるワクチンにリニューアルされました。(15価→20価)
(これらのワクチンは従来の皮下注射に加え筋肉注射も認められています。)

